

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の評価に係る

「ふり返しシート」調査報告書

目 次

■調査の実施		1
■調査結果		1
共通指標		2
鶴岡地域	単位自治組織	8
//	広域コミュニティ組織	20
藤島地域	単位自治組織	27
//	広域コミュニティ組織	33
羽黒地域	単位自治組織	36
//	広域コミュニティ組織	40
櫛引地域	単位自治組織	43
朝日地域	単位自治組織	48
//	広域コミュニティ組織	54
温海地域	単位自治組織	57
<参考> 「ふり返しシート」調査票（鶴岡地域単位自治組織の場合）		63

■調査の実施

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の地域課題に基づき、住民主体によるまちづくり活動の現状を評価・検証するとともに、今後のまちづくりの在り方や方向性を探るために、「ふり返しシート」の作成を依頼しました。

- ①調査対象 単位自治組織 463 組織、広域コミュニティ組織 33 組織の長
- ②調査時期 令和6年2月以降に配付。提出期限は令和6年4月下旬
- ③調査方法 郵送配付。回収は、市役所またはコミュニティセンターにお持ちいただくほか、メールなど
- ④回収状況 次のとおり

■回収状況

		調査対象数	回答数	有効回答数	有効割合
鶴岡	単位自治組織	247	198	198	80.2%
	広域コミュニティ	21	21	21	100.0%
藤島	単位自治組織	61	32	32	52.5%
	広域コミュニティ	5	5	5	100.0%
羽黒	単位自治組織	69	68	68	98.6%
	広域コミュニティ	4	4	4	100.0%
櫛引	単位自治組織	21	21	21	100.0%
朝日	単位自治組織	38	27	27	71.1%
	広域コミュニティ	3	3	3	100.0%
温海	単位自治組織	27	27	27	100.0%
合計	単位自治組織	463	373	373	80.6%
	広域コミュニティ	33	33	33	100.0%

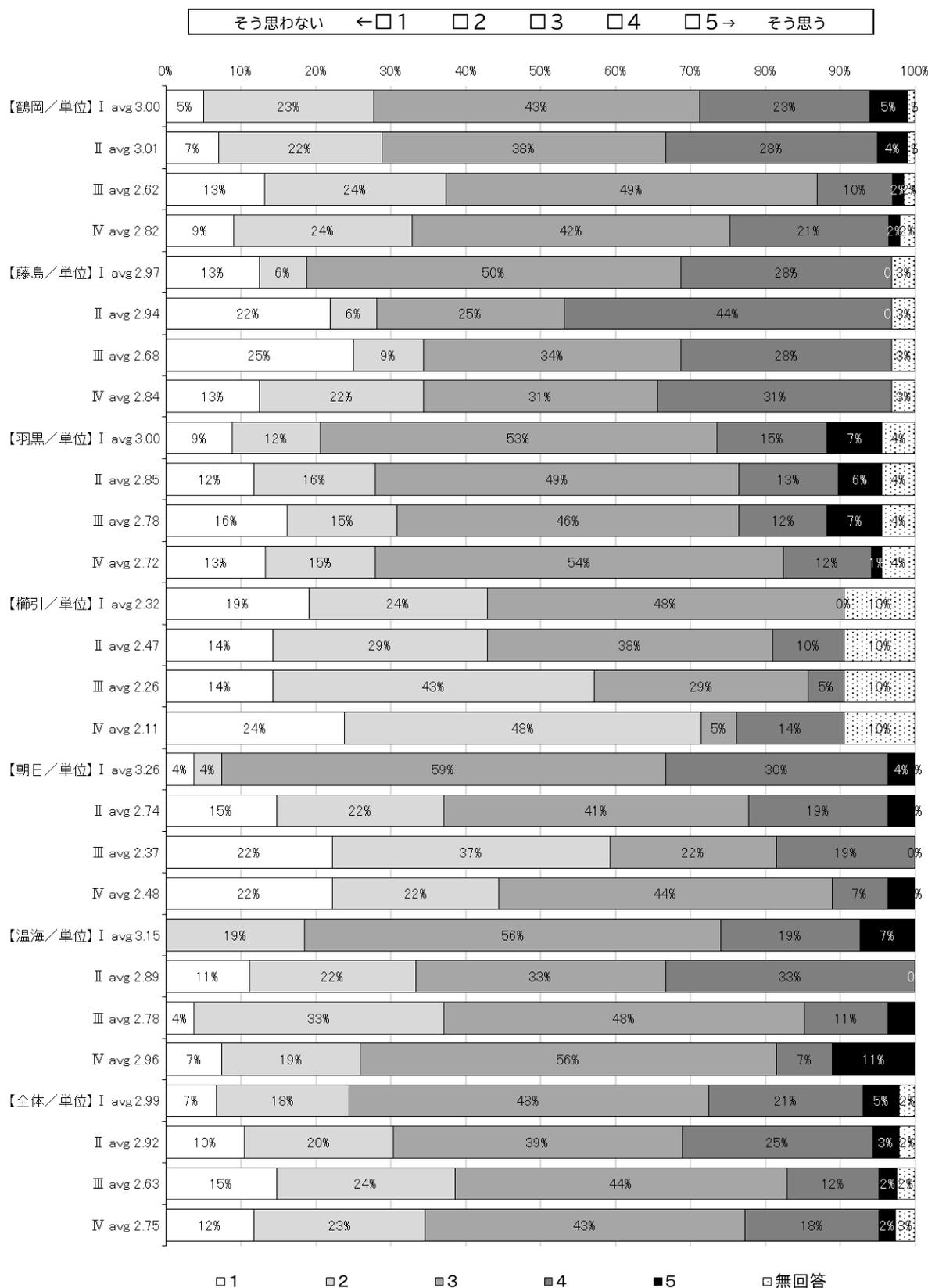
■調査結果

共通指標、地域課題（地域別、単位自治組織・広域コミュニティ組織別）の順に次ページ以降に示します。

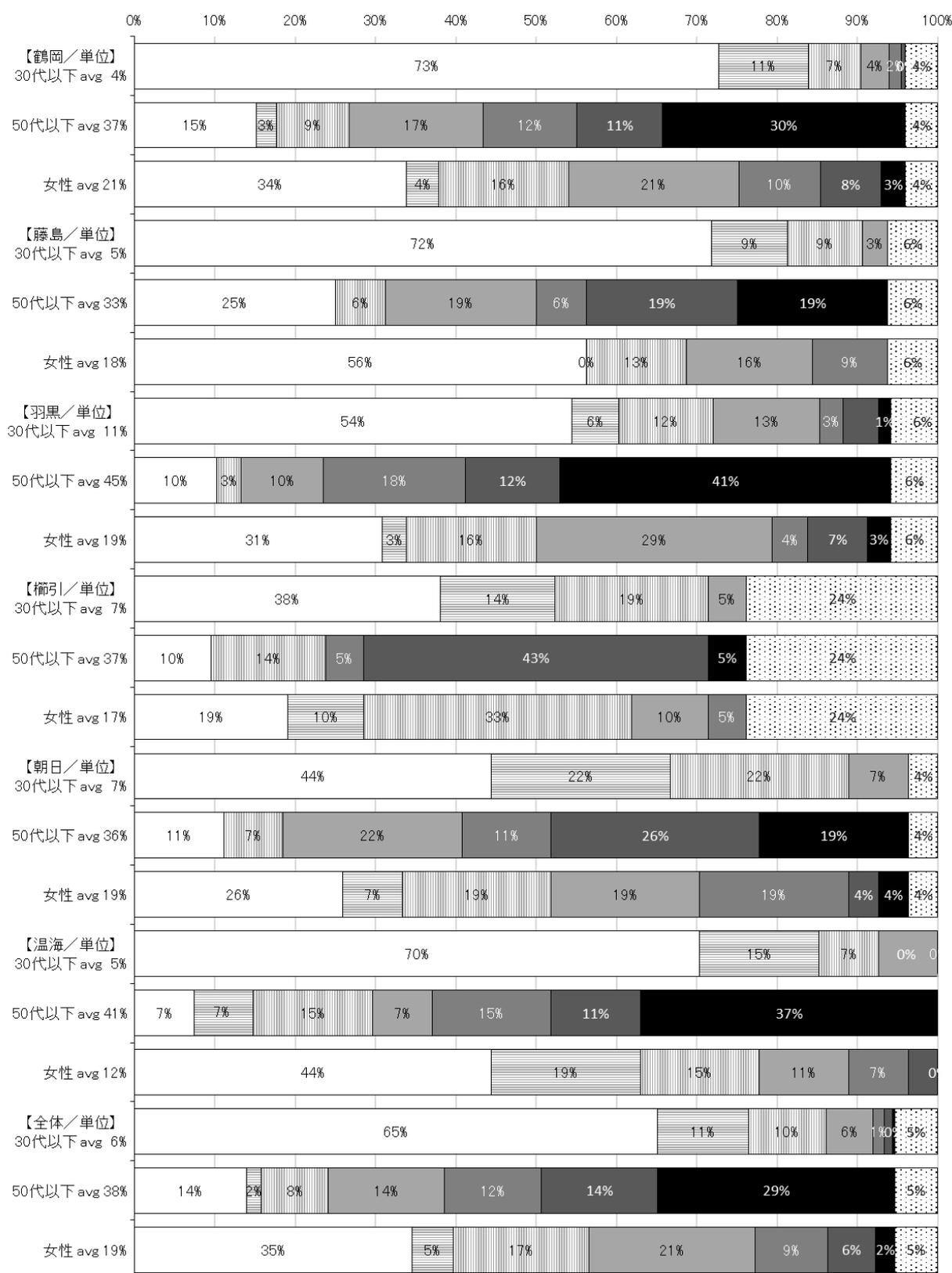
5段階評価

5段階評価の回答割合（R5 単位自治組織）

- 項目Ⅰ 住民同士の対話（話し合い）を積極的に行った
- 項目Ⅱ 地域活動への参加者が前年よりも増えた
- 項目Ⅲ 子どもが活躍できる環境づくりを促進した
- 項目Ⅳ 組織間の連携や地域外交流を促進した

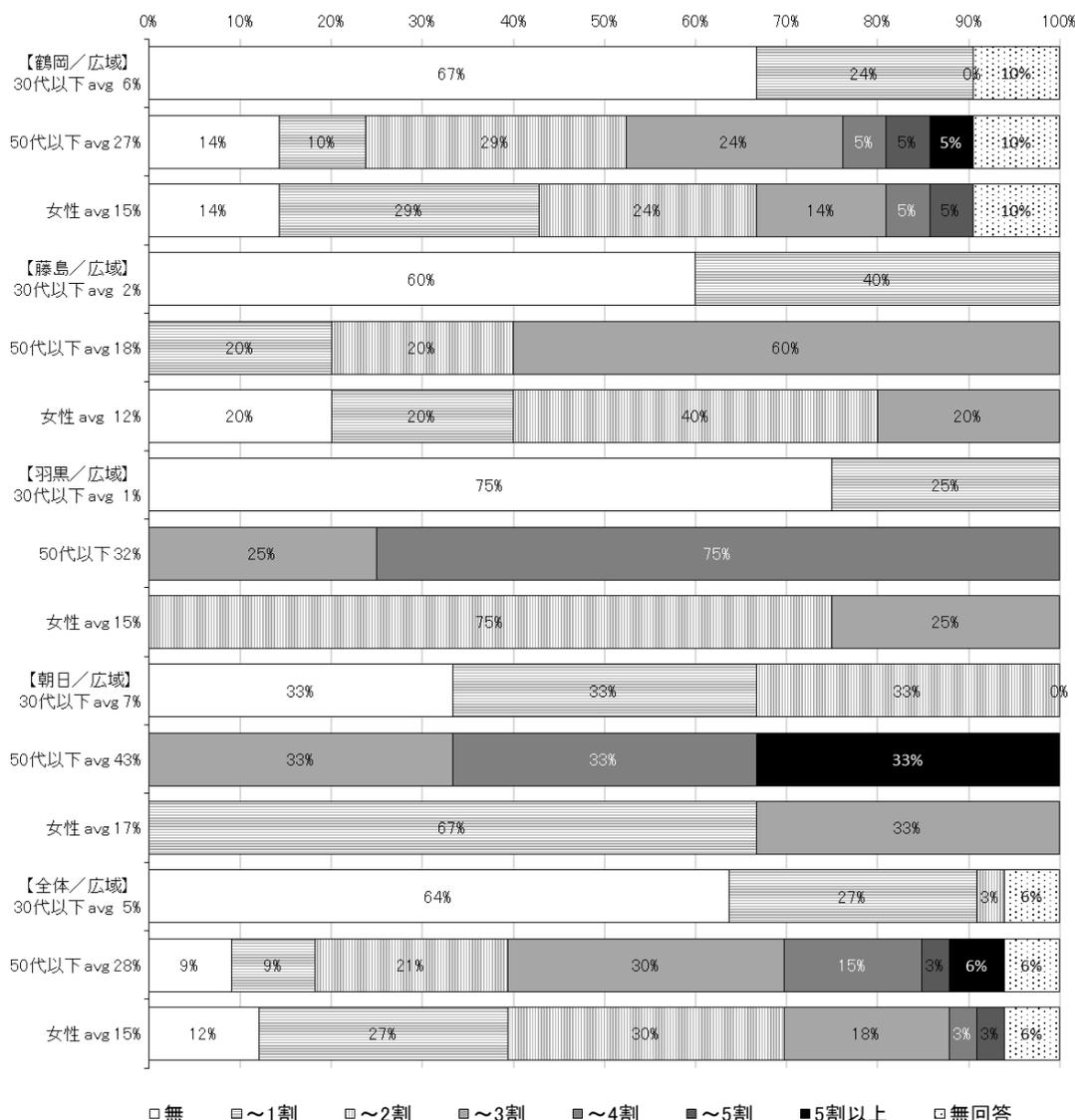


役員構成



□無 □~1割 □~2割 □~3割 □~4割 □~5割 ■5割以上 □無回答

若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R5 単位自治組織）

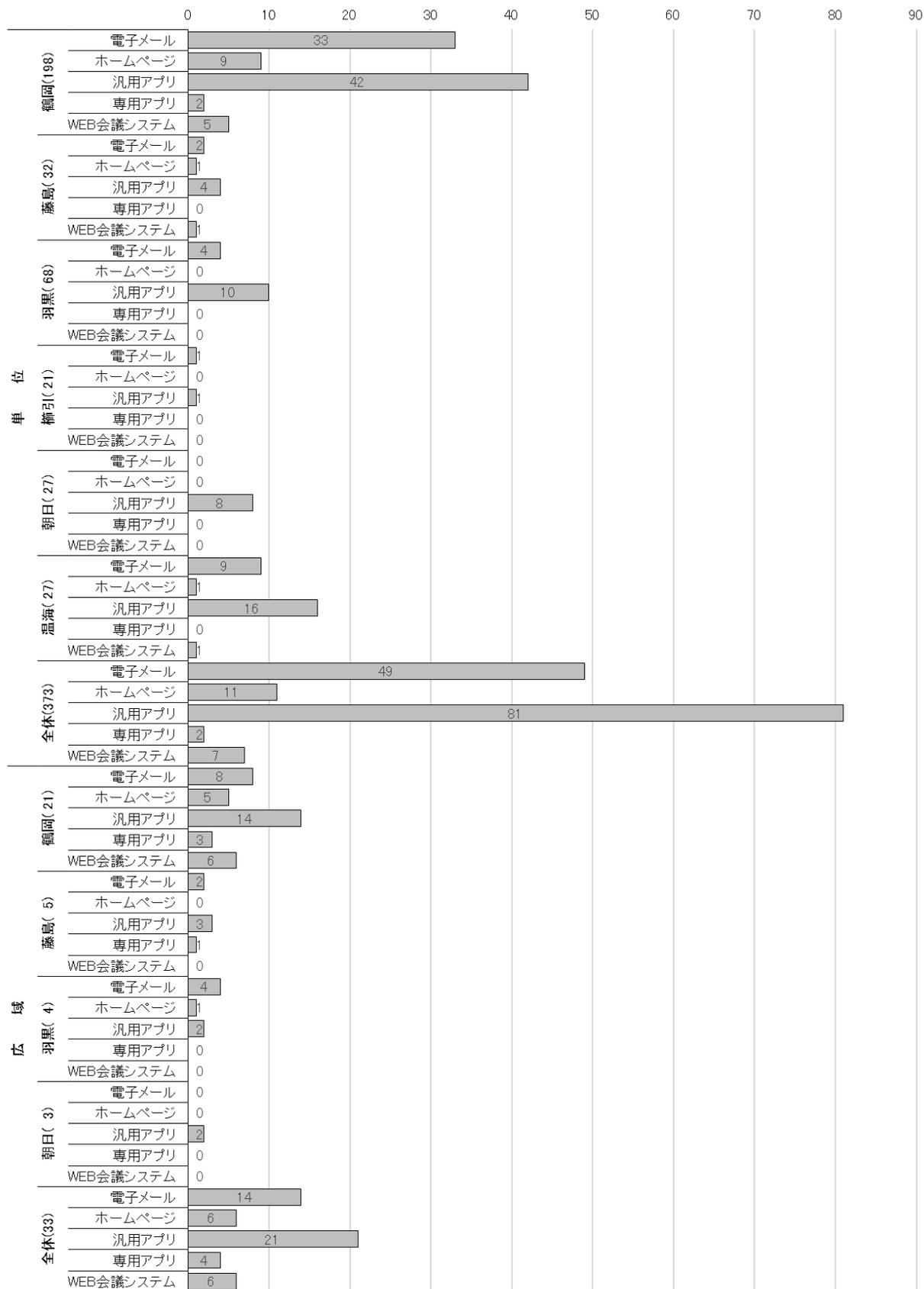


若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R5 広域コミュニティ組織）

若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（平均値）

		R 3			R 4			R 5			R 6			R 7		
		30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性
単位自治組織	鶴岡地域	4%	32%	22%	4%	35%	20%	4%	37%	21%						
	藤島地域	8%	38%	21%	7%	39%	21%	5%	33%	18%						
	羽黒地域	9%	45%	17%	11%	48%	17%	11%	45%	19%						
	櫛引地域	6%	34%	18%	12%	43%	14%	7%	37%	17%						
	朝日地域	7%	40%	17%	6%	33%	14%	7%	36%	19%						
	温海地域	7%	48%	15%	5%	43%	11%	5%	41%	12%						
	全地域	6%	36%	20%	8%	40%	17%	6%	38%	19%						
広域「三」組織	鶴岡地域	4%	28%	16%	2%	25%	14%	6%	27%	15%						
	藤島地域	0%	24%	9%	10%	34%	7%	2%	18%	12%						
	羽黒地域	0%	17%	18%	0%	24%	16%	1%	32%	15%						
	朝日地域	11%	52%	15%	12%	53%	16%	7%	43%	17%						
	全地域	4%	29%	15%	6%	34%	13%	5%	28%	15%						

デジタル化の推進



※括弧内の数値は、回答いただいた組織数。

デジタル化の推進状況（各種デバイスを利用している組織数、単位自治組織・広域コミュニティ組織）

■自由記述から一部抜粋（単位自治組織）

- ・各行事のトピックス動画等、多様な情報を LINE オープンチャットを活用して自治会員及び進学や就職等で地区を離れている方へ発信した。家族、住民間のコミュニケーションのネタとなること、及び行事への参加喚起となることを期待している。（鶴岡：30 世帯以下：郊外地）
- ・メールを利用した会議の招集、コミセン会議の内容連絡。機器の操作に慣れている世代間の差が大きい。（鶴岡：30 世帯以下：郊外地）
- ・役員間の LINE 活用により会議招集連絡事項伝達、役員間の情報交換はじめ費用・時間節減に役立った。情報伝達の時間短縮に効果が大きかった。（鶴岡：101～300 世帯以下：市街地、羽黒：31～100 世帯）
- ・ホームページを立ち上げ情報発信中。更新中で今後の情報発信に期待。（鶴岡：301 世帯以上：市街地）
- ・自主防災会で LINE を活用することとして、通常時・緊急時の連絡手段に取り入れた。スマホを持たない方もあったため、22 名のうち 21 名の登録となり全員とはいかなかったが、95%の登録率であり、有事の際は隣人でカバーすることとした。連絡により確認が取れるので、今後も適切に情報共有していきたい。（朝日：30 世帯以下）

■自由記述から一部抜粋（広域コミュニティ組織）

- ・Facebook、Instagram、X にコミュニティネットワークの活動をアップすることで事業の様子を広く周知することができた。閲覧数も増えていることから興味を持ってくれる方が増えていると言える。
- ・自治会役員、また福祉、防災、地域ビジョンなど各担当部門で LINE グループをつくり、連絡等のペーパーレス化、迅速化と情報発信・共有を図った。また、災害時の緊急連絡等にも活用した。
- ・各団体への連絡ツールとして、LINE を取り入れ、会議や行事の案内を送付した。配布物も少なくなり、住民の方の負担が減った。
- ・ミーティングで出された「地区住民が参加できるスマホフォトイベント」を開催した。投稿された写真を HP で公開したことで、若い世代の参加があった。
- ・スマホ教室や地域資源選定を行うとともに、環境美化活動やフリーマーケット等の実施に取り組んだ。地域の高齢者がスマホ教室を通して日頃悩んでいる操作等について学ぶことができ、解決が図られた。
- ・自治会長のグループ LINE を作成し、各種情報連絡の迅速化を図った。自治会長からの問合せにも速やかな対応が可能になり、自治会における課題解決に役立っている。
- ・高齢者世代と若い世代の意識の違い⇒アプリを活用したい世代と活用できない世代の差がある。便利と思う事が高齢者には不便である。
- ・広報紙の他、SNS を使い地域内外に地区の魅力や情報の発信をした。
- ・地域共創プロジェクト事業として、デジタル人材養成講座を開催することでデジタル人材を育成した。また、育成した人材により、希望のあった地域で住民へのスマホ教室を開催することができた。